

筑紫（九州）の万葉集と風景画シリーズ（第二十八回）

おほつのみこ

「九州と大津皇子」

（な おおつ那の大津とな二上山）

・九州北部に位置する博多湾最奥部にある「博多港」は万葉集に詠われている「志賀島」、志賀島と九州本土を繋ぐ「海の中道」となかみち「能古島」に囲まれた天然の良港として、古来から「那津」「那のな大津」あるいは「袖の湊」などと呼ばれ、遣隋使・遣唐使・遣新羅使あるいは南蛮貿易に代表される中国大陆や朝鮮半島・東南アジア等との経済・文化交流の窓口として栄えてきた我が国でも最も古い国際貿易港といわれている。

・今も博多港は九州・西日本の海の玄関口として、また、アジア・世界につながる拠点港湾として、今日もさらに発展を続けており、博多港埠頭から港を眺めると多くの大型船舶、小型船舶が頻繁に行き来するのがみられる。

・奈良時代に完成した「日本書紀」には斉明七年（661）一月に百濟を助けて新羅を討つために斉明天皇一行は難波から「御船を征西に出発。」とあり三月には「御船はなのおおつ那大津に着く」とある。

・この「なのおおつ娜大津（那津とも呼ばれた。）」は日本歴史地名大系には「古代の津の名で那珂川の河口付近にあたるか。」と記述されている。

・現在の那珂川は福岡県と佐賀県の県境に源を発し、北流して福岡平野を貫流し福岡市の中心部から博多湾に注ぐ長さ30キロの川で河口部には古来からなのおおつ娜大津（あるいは那津。）と呼ばれていた博多港がある。

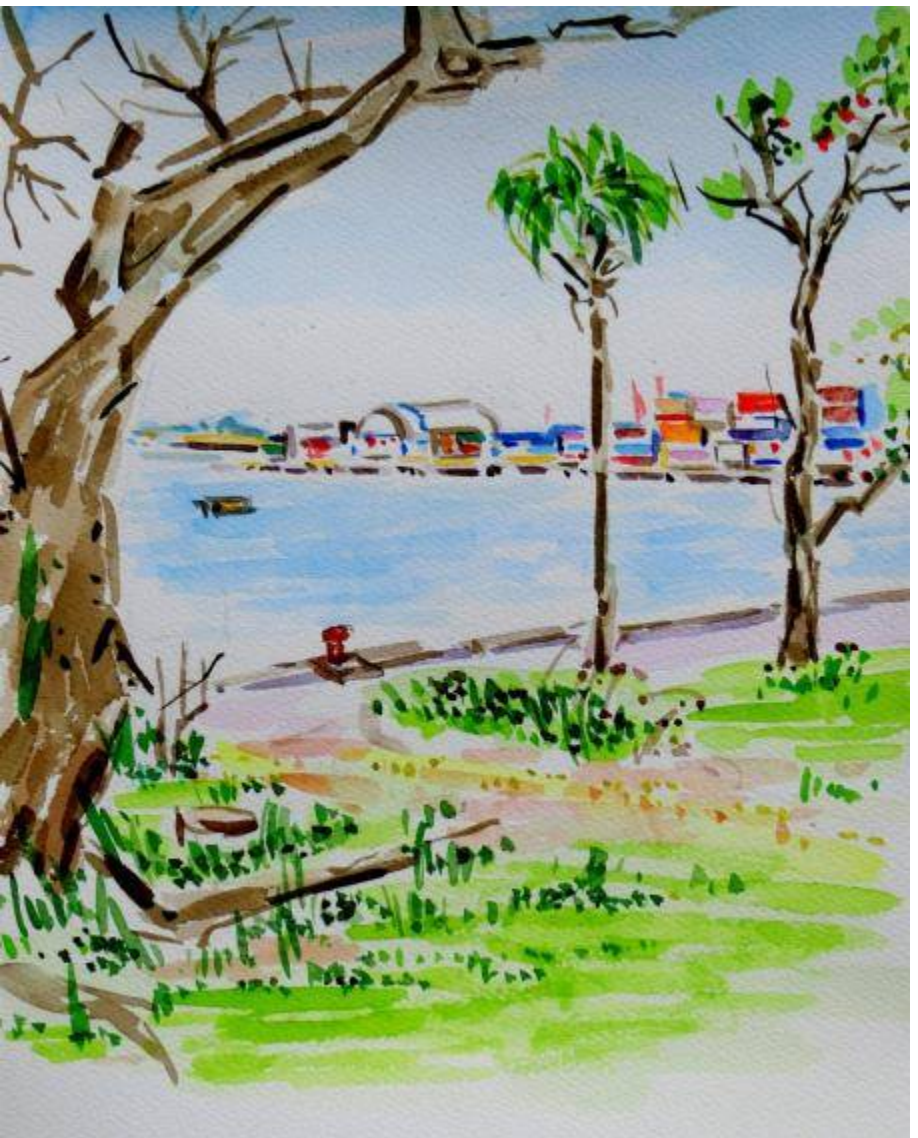
・また「日本書紀」宣化天皇の条に「那津の口」に宮家を修造して屯倉の稲殻を集積して非常時に備えたとあるが、此の地はのちの大宰府の起源と考えられてきた。また、所在地については発掘調査によって確認された現在の博多港口から約二キロメートル離れた博多駅の南に位置する福岡市博多区のひえ比恵遺跡に比定する説が有力となっている。なお、福岡県の地名辞典には「日本書紀」斉明天皇七年の条に、斉明天皇が百済救援のために西下した際にみえる「な娜大津」も同地であろうと記されている。

・現在、博多港の埠頭付近に「那の津」という町名があるが、この町名は福岡市中心部周辺の古代地名「那津」に由来する。とある。

(写生地)

・今は福岡湾が埋め立てられ、その地に倉庫などの建物が多く建ち並び古代の港の面影がほとんど失っているが、港に発着する多くの舟が往き来する那珂川の河口付近にある博多港埠頭から「娜大津

(那津)」の後身といわれている博多港を描く。(杏花)



・前田淑氏著「大宰府万葉の世界」には日本書紀にある斉明七（6

61）年に我が国が国を挙げて新羅征伐にふみきり大軍団をもって

難波を出発し、瀬戸内海を運航し筑紫へむかう途中、船団が備前国

大伯おおくの海（現・岡山県邑久郡の沖合。）に至った時に斉明天皇の一

行に従っている大海人皇子（後の天武天皇）に嫁いだ大田皇女は船

中で女の子を出産したが、そこが小豆島北方の大伯海おおくのうみだったので誕

生地おおくのひめみこの名によって「大伯皇女」と呼ばれ、後年、弟・大津皇子の悲

劇とかかわり、すぐれた万葉歌を遺している。と述べる。

その二年後の天智天皇二（663）年に大田皇女は滞在中の筑紫の

娜大津（那津）において大伯皇女の弟にあたる男の子を出産した。

この皇子の名は娜大津（那津）で誕生したことからその地名から

おおくのみこ「大津皇子」と名付けられたのだとの説がある。

・それから二十四年を経た朱鳥元年（686）十月、大津皇子は謀

反のかどで処刑されることになり万葉集では悲劇の皇子として取り上げられている。

・大津皇子は処刑された翌年の春、大和国原の西の果てに、秀麗な姿を示してそびえる二上山頂に葬られた。

・大津皇子の死を悼いたんで、万葉集に「大津皇子の屍しかばねを葛城かつらぎの二上ふたかみ

山やまに移し葬はなる時に大伯皇女の哀傷かなしびて作らす歌二首」の内の一首に次の歌がある。

うつそみ

現世の人にある我れや

あす

ふたかみやま いろ

明日よりは二上山を弟

せ わ

背と我れ見む」

卷二―165 作者 大伯皇女

(解説) 弟は遠い世界に行ってしまった。この世にい

る私は明日からは二上山を弟と思つてずっと

私は見つづけよう。

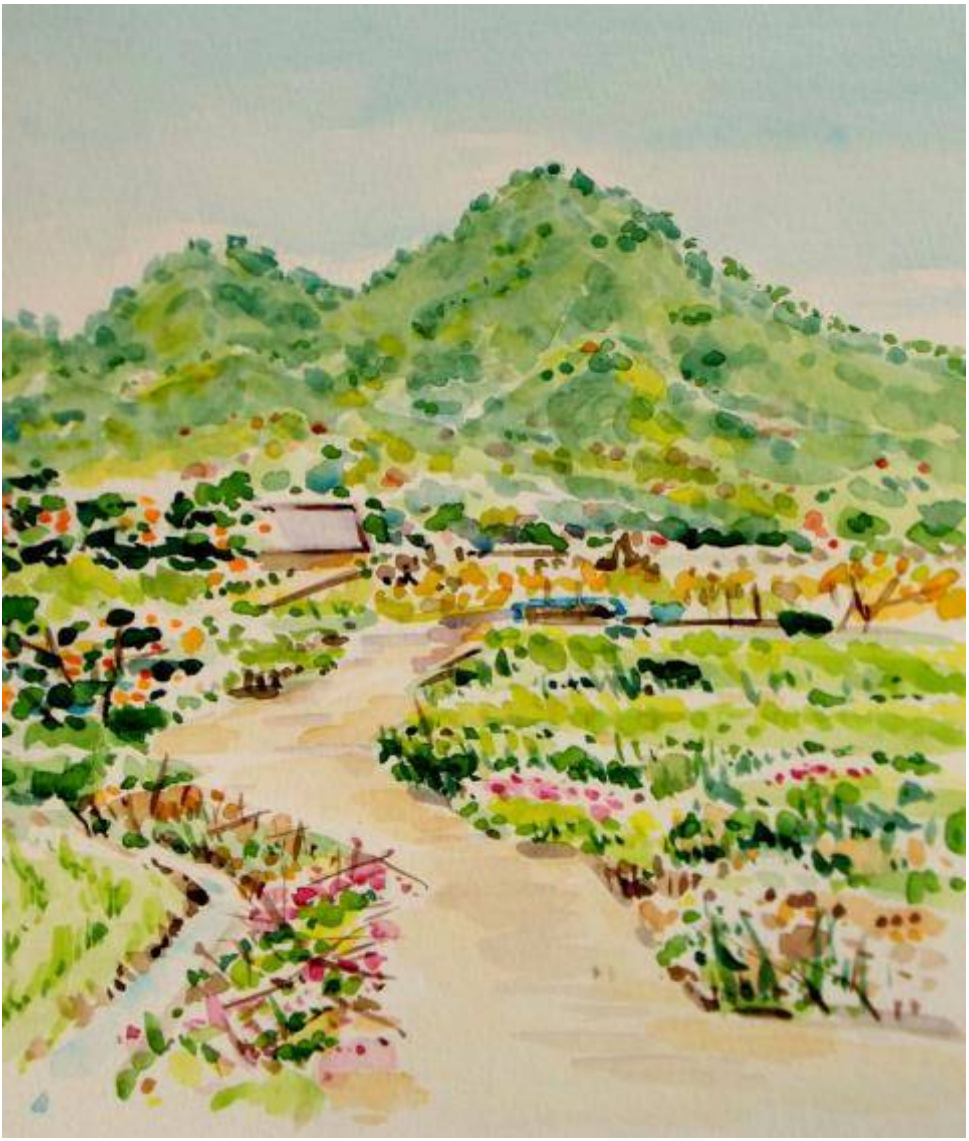
・二上山は奈良と大阪の境(奈良県葛城市、大阪府太子町)にあり、北側の雄岳は五一七メートル、南側の雌岳は四七四メートルの二つの山からなり、「ふたかみやま」または「にじょうざん」と呼ばれている。大津皇子の墓といわれている墳墓は、雄岳の頂上付近にある。

(写生地)

二上山北麓に位置し近鉄南大阪線「二上神社口」駅から徒歩約15分の奈良県葛城市今在家から二上山風景を描く。

山の麓には日本最古の石仏が出土したとと寒牡丹が約2700本が植えられていることから花の寺として有名な「石光寺」せつこうじがある。

(杏 花)



「参考文献」

- ・ 福岡県の地名（日本歴史地名大系41）・角川・地名大辞典・福岡県百貨事典
- ・ 那の津を拓くー運輸省第四港湾建設局・前田淑氏著「大宰府万葉の世界」など